

裁判所ハ義務ヲ負タル不動産ノ所有者即チ第三債務者へ差押命令ヲ送達シタル後ニ於テ記入ノ手續ヲ爲スベシ(全上)

差押タル金銭ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラソコヲ申請スルコトヲ得(第六百條)

支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限りハ差押債權手續ヲ爲スニ因リ債權者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス(第六百一條)

取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但シ執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スコトヲ債務者ニ許スコトヲ得ヘシ仍テ其制限シタル部分ニ限り他ノ債權者ハ配當要求

ヲ爲スコトヲ得ス(第六百二條)

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知スベシ(全上)

手形其他稟書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル証券ニ因レル債權ノ差押ハ

執達吏其証券ヲ占有シテ之ヲ爲スモノトス(第六百三條)

俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後

ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス(第六百四條)

職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉宅兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス(第六百五條)

債務者ハ債權ニ關スル所持ノ証券ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其証券ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得ヘシ(第六百六條)

第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保証ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サ

シメテ執行ヲ免カル、コトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金銭債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲スヘシ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル効力ノミヲ有スルナリ(第六百七條)

債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可キモノトス(全上)

差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメノコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得ヘシ(第六百九條)

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度并ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其請求ノ種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ

其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載スヘキナリ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス(全上) 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ(第六百十條)

債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス(第六百十一條)

債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ但此カ爲メ其請求ヲ害セラル、コトナシトス(第六百十二條)

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲スモノトス(全上)

一定ノ債權ニ付或ハ債務者ヲ保護スルタメ或ハ公安ヲ保持スル爲メ其差押ヲ許サ、ルモノアリ左ニ掲ケル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス〔第六百十八條〕

第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ収入但シ債務者及ヒ其ノ家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士兵卒ノ給料并ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ収入

第五 文武ノ官吏神職僧侶及公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メニ受クル報酬右ニ述フル第一號第五號第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ収入恩給其他ノ収入カ一個年ニ三百圓ヲ超過スル片ハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得ルナリ今官吏ノ俸給ニ付テ例ヲ示セハ茲ニ六百圓ノ年俸ヲ受クル官吏アリ然ル片ハ超過額三百圓アルカ故ニ其半分即チ百五十圓ハ差押フルコトヲ得ヘキナリ

數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數項ノ規定ヲ準用スルモノトス〔第六百十九條〕
執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領収スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九

十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用スルモノトス〔第六百二十條〕

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得サルナリ〔全上〕

右配當要求ハ職權ヲ以テ之レヲ第三債務者債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ効力ヲ生ス

〔全上〕

金錢ノ債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供托スル權利アリ〔第六百二十一條〕

又第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供托スル義務アリ〔全上〕

第三債務者債務額ヲ供托シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ〔全上〕

請求カ不動産ニ關スル片ハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ〔第六百二十二條〕

第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得〔第六百二十三條〕

執行力正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アルモノナリ〔全上〕

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラノコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得ルナ

リ(全上)

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス効力アリ(全上)

差押債權者取立手續ヲ怠リタル片ハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スヘキヲ催告シ其催告ノ效アラサル片ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スヲ得ルナリ(第六百二十四條)

不動産ヲ目的トセス又前數項ニ掲ケタル以外ノ財産ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用スルモノトス(第六百二十五條)

若シ第三債務者ナキ片ハ差押ハ債務者ニ權利處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス(全上)

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡

ヲ命スルヲ得(全上)

第三款 配當手續

配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ於テ執達吏カ其賣得金ヲ受取リタル日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間ヲ經過シテ各債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シテ執行裁判所ニ届出タル場合ニ於テ之ヲ行フモノトス(第六百二十六條)

此他亦第三債務者カ債務金額ヲ供託シテ執行裁判所ニ届出テタル後各債權者間ノ協議調ハサル場合ニ於テ亦當然之ヲ行フモノトス(第六百二十一條)

裁判所ハ事情届出ニ基キ七日ノ期間内ニ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ各債權者ニ催告スベシ(第六百二十七條)右七日ノ期間滿了後ニ於テ裁判所ハ配當表ヲ作ルナリ(第六百二十八條)

七日ノ間ニ申出テサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求
并ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但シ後ニ債權額ヲ
補ヒ改ムルヲ許サス(全上)

裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日
ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス尤モ債務者ノ所在明カナラサルト
キ又ハ外國ニアルトキハ呼出ヲ爲スニ及ハス(第六百二十九條)

配當表ハ各債權者及債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クモ期日ノ三日
前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備ヘ置クヘシ(全上)

期日ニ於テ異議ノ申立ナキ片ハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施スヘシ
停止條件付ノ債權ノ配當額ハ之ヲ供託シ其條件ノ成否ニ從ヒ或ハ支
拂ヒ或ハ更ラニ配當スルモノトス(第六百三十條)

未確定ノ債權其他異議アル債權ノ配當額モ供託ヲ爲スモノトス(全上)

配當實施ニハ調書ヲ作ルモノナリ(全上)

配當期日ニ當リ異議ノ申立アル片ハ他ノ債權者ハ之レニ對シ直チニ
其意見ノ陳述ヲ爲スナリ若シ關係人其異議ヲ正當ト認ムルカ又ハ配
當表以外ノ方法ニ於テ合意ヲナス片ハ執行裁判所ハ之レニ從ヒ配當
表ヲ更正シ配當ヲ實施スルナリ之レニ反シ異議終ニ完結スルヲ能ハ
サル片ハ其異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施スヘシ(第六百三十一條)
異議ノ申立ハ配當裁判所ヘ之ヲ申立ツルナリ然レトモ訴訟物ニシテ
區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地
方裁判所ニ申出テサルヘカラス但シ各債權者總テノ異議ニ付配當裁
判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ合意シタルトキハ此限リニアラス(第六百
三十五條)

期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト見做サ

ル(第六百三十二條)

若シ期日ニ出頭セサル債権者カ他ノ債権ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スル片ハ其債権者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノトヲ見做サル(全上)

期日ニ於テ異議ノ完結セサル片ハ異議ヲ申立テタル債権者ハ他ノ債権者ニ對シ訴ヲ起シタルトテ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可キナリ(第六百三十三條)

異議ヲ申立テタル債権者前條ノ期間ヲ怠リタル片ト雖トモ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債権者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラル、トナシトス(第六百三十四條)

裁判所ハ凡テノ場合ニ於テ配當表ニヨリテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實

施スベシ(第六百三十九條)

- 一 債権全部ノ配當ヲ受クヘキ債権者ニハ執行力アル正本又ハ債権ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘシ(全上)
- 二 債権一分ノミノ配當ヲ受クヘキ債権者ニハ執行力アル正本又ハ債権ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂証ヲ交付スルト同時ニ右債権者ヨリ金額ヲ証記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘシ(全上)
- 三 期日ニ出頭セサル債権者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託スヘシ(全上)
- 四 裁判所書記ハ右ノ手續ヲ爲シタル片ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス(全上)

第四款 不動産ニ關スル強制執行

不動産ノ何物タルカハ民法ノ定ムル所ニ屬ス(民財第八條乃至十條)

然レ此ニ於ケル不動産ハ所有權ニ關シテ登記ヲ要スヘキモノ即チ重モニ地所建物ノ二個ニアリトス
不動産ニ對シテ執行ヲ求ムルニハ二ノ方法アリ(第六百四十條)

一 強制競賣

二 強制管理

強制競賣トハ不動産ヲ賣却シ債權者ノ請求額ニ充ツルヲ云フ

強制管理トハ不動産ヲ管理シ其ノ果實ヲ納メテ債權者ノ請求額ニ充ルヲ云フナリ

故ニ不動産ニシテ果實ノ生スヘキモノナルハ此二個ノ方法ヲ併セテ用ユルコト頗ル利益アリ何トナレハ其競賣ニ至ルマテ果實ヲ保存スルヲ得レハナリ尤モ其一個ノ方法ノミヲ用ユルヲ得ヘシ(第六百四十條)

強制管理ハ假差押ノ執行ノタメニモ亦之ヲ爲ス(全上)

不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄スルナリ若シ其不動産數個ノ區裁判所ノ管轄内ニ散在スルハ直近上級ノ裁判所ヘ管轄指定ノ訴ヲ起シテ其直近上級ノ裁判所ヲシテ管轄ヲ定メシム(第六百四十一條)

第一段 強制競賣

強制競賣申立ツルニ要スヘキ件々左ノ如シ(第六百四十二條)

- 一 債權者債務者及裁判所ノ表示
 - 二 不動産ノ表示
 - 三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其ノ執行シ得ヘキ一定ノ債務
- 名義

(書式)

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

強制競賣ノ申立

二十號
印紙

住所

債權者

某

住所

債務者

某

請求金額

一金何程

一金何程

一金何程

一金何程

合計金何程

右金額ハ明治何年何月何日ノ某裁判所〔控訴院〕執行力アル判決

及ヒ明治何年何月何日ノ某裁判所ノ訴訟費用確定判決ニ依リ
債務者ノ辨濟スヘキモノナリ

前記請求金額並ニ此競賣申請ノ費用金若干ノ辨濟ニ充ツル爲
メ債務者某ノ所有ナル左記ノ不動産競賣被成下度此段申立候
也

何郡(市)村(町)字番地

一田(山林)畑(宅地)何段何畝何歩

地價 何程

何郡(市)村(町)字番地

一木造(煉瓦造)板葺瓦葺二階造建家壹棟

此建坪何坪

此二階坪何坪

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

但圖面添

右

某

年 月 日
宛

其申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ証書ヲ添付ス可シ(第六百四十三條)

- 一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認証書
- 二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ登記判事ノ認証書
- 三 地所ニ付テハ國郡市町村字番地地目反別若クハ坪數土地臺帳ニ登録シタル地價及其地所ニ付キ納ムヘキ一個年ノ租稅其地ノ公課ヲ証スヘキ証書

四 建物ニ付テハ國郡市町村字番地構造ノ種類建坪及ヒ其建物ニ付納ムヘキ一個年ノ公課ヲ証スヘキ証書

五 地所建物ニ付キ貸賃借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ証スヘキ証書

(船舶ノ片ハ船舶ニ關スル証書ヲ添フヘシ)

右二號三號及ヒ四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(全上)

又四號及ヒ五號ノ要件ヲ証明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシムヘキナリ(全上)

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ一號乃至五號ノ要件ヲ記載シタルモノアル片ハ其証書ヲ添付スルコト

ヲ要セサルナリ(全上)

競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言スヘシ(第六百四十四條)

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス(全上)

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニヨリ其効力ヲ生ス此送達ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノナリ(全上)

裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス(第六百四十五條)

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス(全上)

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス(全上) 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ撰定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ(第六百四十六條)

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得(全上)

執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ(第六百四十七條)

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ(全上)

債務者カ認諾セサルユトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ

確定スヘシ(全上)

左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス(第六百四十八條)

第一 者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ

届出ヲ爲シタル者

差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アル

トキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス(第六百四十九條)
不動産ハ賣却ニ因リ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ不動産上ノ負擔ヲ

免カル、者トス但競落人其負擔ヲ引受ケタルハ此限ニ在ラス(全上)
登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産負擔ハ競落人之ヲ引受クルモノトス
(全上)

權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ効力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス(第六百五十條)

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行スヘシ(全上)

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス(全上)
競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タルヘシ(第六百五十九條)

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏
ヲシテ之ヲ開カシム(全上)

競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス(第六百六十條)

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク(全上)

競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス(第六百六十一條)

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコ
トヲ得(全上)

最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人
ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ
爲スコトヲ得(第六百六十二條)

利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメソコトヲ申立ツルトキ
ハ其ノ競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ
有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サ
ス(第六百六十四條)

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其
申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ附テモ亦効力アリ(全上)

競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テ
タル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス(第六百六十五條)

競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之
ヲ終局スルヲ得ス(全上)

執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局
ヲ告知ス可シ(第六百六十六條)

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ返還ヲ求ムル權利アリ〔全上〕

最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ撰定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツヘシ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百十三條第三項ノ規定ヲ準用ス〔六百六十九條〕

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

〔全上〕

競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條

第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ低競賣價額ヲ

相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ

競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ〔第六百七十條〕

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ〔全上〕

第二段 競賣ニ付テノ異議

裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ〔第六百七十一條〕

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ〔全上〕

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クテ要ス〔第六百七十二條〕

第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二 最高價競買人競買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナ

キコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲サ

サルコト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ

違背シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケ

タルコト

異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス〔第六百七十三條〕

期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ

主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ〔第六百九十八條〕

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項

ト同一ノ權利アリ〔全上〕

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス〔全上〕

第三段 競落ニ付テノ許否

裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル片ハ競落ヲ許サス〔第六百七十四條第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アル片ハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ

承認セサルトキニ限ル(全上)

數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス(第六百七十五條)

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得(全上)

第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ(第六百七十六條)

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ(全上)
競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル競ニ其競買ヲ取

消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム(第六百七十八條)

利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第六百八十條)

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得(全上)

右抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス(全上)

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス(全上)

競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ヲ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得(第六百八十一條)

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得全上

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケララルルコト無シ全上

第四段 競落人ノ心得可キ手續

競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル全上

競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス第六百八十六條

競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ム

ルコトヲ得ス第六百八十七條

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ全上

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ全上

競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ第六百八十八條

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス全上

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ全上

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂
ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ(全上)

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度
ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費
用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス(全上)

第五段 配當手續

競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ
満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法商法及ヒ特別法ニ從ヒテ
之ヲ配當ス可シ(第六百九十一條)
各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ
計算書ヲ差出ス可シ(第六百九十二條)
前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定

ヲ準用ス(全上)

代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以
テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス(第六百九十三條)

此期日ニハ利害關係人執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル
債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ(全上)

期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム
可シ(第六百九十四條)

左ノモノヲ賣却代金トス(全上)

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場

合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ(全上)

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス(全上)
 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配
 當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當者ヲ確定ス可シ(第六百九十五條)
 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金利息費用及ヒ配當ノ順位
 並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ(第六百九十六條)
 若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ
 配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル
 可シ
 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條
 以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ
 此限ニ在ラス(第六百九十七條)
 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ

際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代
 金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルハ其
 債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計
 算スルニ因リテ消滅ス然レモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人
 ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又
 ハ保證ヲ立ツ可シ(第六百九十九條)

配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記
 判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ(第七百條)

- 第一 競落人ノ所有權ノ登記
 - 第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消
 - 第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消
- 右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ(全上)

第六段 入札手續

裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス〔第七百二條〕
入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ入札ニハ左ノ諸件ヲ其備スルコトヲ要ス〔第七百三條〕

第一 入札人ノ氏名及住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之レヲ朗讀ス可シ〔第七百四條〕

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ

爲サシメ最高價入札人ヲ定ム〔全上〕

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス〔全上〕

最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ〔第七百五條〕

第七條 強制管理

強制管理ヲ申立ツルニ要スヘキ件々左ノ如シ〔第六百四十三條第七百六條〕

- 一 債務權者債務者及ヒ裁判所ノ表示
- 二 不動産ノ表示

三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

〔書式〕

強制管理ノ申請

二十錢
印紙

住所

債權者

住所

債務者

某

某

請求金額

一金何程

一金何程

一金何程

一金何程

合計金何程

右金額ハ明治何年何月何日ノ某裁判所〔控訴院〕執行力アル判決
及ヒ明治何年何月何日ノ某裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ
債務者ノ辨済スヘキモノナリ

前記金額並ニ此強制管理申請ノ費用金若干圓ノ辨済ニ充ツル
爲メ債務者所有スル左記ノ不動産ヨリ生スル收益ヲ〔例〕其小作
人某ヨリ直チニ管理人ヘ給付スヘキ様強制管理ノ決定被下度
此段申立候也

何郡〔市〕村〔町〕字番地

一田〔山林〕〔畑〕〔宅地〕何段何畝何歩

何郡〔市〕村〔町〕字番地

一木造煉瓦造板葺〔瓦葺〕二階造建家壹棟

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

〔書式〕

強制管理ノ申請

住所

二十錢
印紙

債權者

某

住所

債務者

某

請求金額

一金何程

一金何程

一金何程

一金何程

合計金何程

右金額ハ明治何年何月何日ノ某裁判所(控訴院)執行力アル判決
及ヒ明治何年何月何日ノ某裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ
債務者ノ辨濟スヘキモノナリ
前記金額並ニ此強制管理申請ノ費用金若干圓ノ辨濟ニ充ツル
爲メ債務者所有スル左記ノ不動産ヨリ生スル收益ヲ(例)其小作
人某ヨリ直チニ管理人ヘ給付スヘキ様強制管理ノ決定被下度
此段申立候也

何郡(市)村(町)字番地

一田(山林)(畑)(宅地)何段何畝何歩

何郡(市)村(町)字番地

一木造煉瓦造板葺(瓦葺)二階造建家壹棟

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

此建坪何坪
此二階坪何坪

但圖面添

右

年 月 日

某

宛

其申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ証書ヲ添付ス可シ(第六百四十三條第七百六條)

- 一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認証書即チ登記簿ノ謄本ヲ云フ此謄本ハ不動産所在ノ區裁判所ニ其下付ヲ請フヘキナリ
- 二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ

証スヘキ証書即チ直稅分署ノ證明書ヲ云フ

三 地所ニ付テハ國郡市町村字番地地目反別若クハ坪數土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ムヘキ一々年ノ租稅其他ノ公課ヲ証スヘキ証書全上證明書ヲ云フ

四 建物ニ付テハ國郡市町村字番地構造ノ種類建坪及ヒ其建物ニ付納ムヘキ一々年ノ公課ヲ証スヘキ証書全上

五 地所建物ニ付貸貸借アル場合ニ於テハ其期間并ニ借賃ヲ証スヘキ証書

右二號三號及ヒ四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルヲ得(第六百四十三條)

四號及ヒ五號ノ要件ヲ證明スル能ハサル并ニ債權者ハ競賣又ハ管理申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルヲ得但シ此場合ニ於テハ

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲナサシムヘシ(全上)

又競賣ヲ申立ツル場合ニ於テ先キニ強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ一號乃至五號ノ要件ヲ記載シタルモノアルキハ其証書ヲ添付スルコトヲ要セサルナリ(全上)

管理手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言スヘシ(第六百四十四條第七百六條)

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニヨリ其効力ヲ生ス此送達ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノナリ(全上)

裁判所ハ管理手續ノ開始決定ヲ爲スニ際シ該不動産ノ登記ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ニ對シ競賣若クハ管理ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入スヘキ旨ヲ囑託スヘシ此囑託ハ職權ヲ以テ爲スヘキモノナリ(第六百五十一條第七百六條)

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ直ニ記入ヲ爲スヘシ(全上)

登記判事前項ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ且該不動産ニ付抵當若クハ其他ノ不動産上權利者ヨリ差出シタル証書アルキハ其抄本ヲモ送付スヘシ(第六百五十一條第七百六條)

執行裁判所ハ區裁判若クハ出張所ノ書類ノ送付ニヨリ抵當若クハ其他ノ不動産上權利者アリテ管理ヲ開始スルモ到底其目的ヲ遂行スヘカラスト認メタルトキ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ証明スヘキコトヲ債權者ニ命スヘシ其期間内ニ此証明ヲ爲サ、ルトキハ期間滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消スヘシ(第六百五十三條第七百六條)

裁判所ハ管理ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ノ有無及ヒ限度ヲ申出スヘキコトヲ期間ヲ定メテ催告スヘシ(第六

第五章 強制執行 第四款 不動産ニ對スル強制執行

百五十四條第七百六條

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ証書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル証書ヲ足ル(第七百六條)

裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干涉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ(第七百七條)

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス(全上)

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス(全上)此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス(全上)

裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス(第七百八條)

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス(全上)

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス(全上)配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ(第七百九條)

管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得(第七百十一條)

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ爲ス此場合

ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルヲ得(全上)
管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス(全上)

第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス(第七百十三條)

管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租税其他ノ公課ヲ控除シタル後別段手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ(第七百十四條)

前項ノ届出アリタル片ハ裁判所ハ第六百九十一條第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシムヘシ(全上)

管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了后各債權者債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ(第七百十五條)

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(全上)

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ御任ヲ承諾シタルモノト看做ス(全上)

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判スヘシ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲ御任セシムヘシ(全上)

強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス(第七百十六條)

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルヲ得(全上)

第五款 船舶ニ對スル強制執行

商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルキ又ハ以下ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル片ハ此限ニ在ラサルナリ(第七百十七條) 端舟其他船權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ船權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス(全上)

船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス(第七百十八條)

船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ(第七百十九條) 然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ

利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スヲ得(全上)

強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ(第七百二十條)

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公證ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラソコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得(全上)

裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ(第七百二十一條)

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

〔全上〕

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セザルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得〔全上〕

船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ〔第七百三十二條〕

此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス〔全上〕

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ヲ續行ヲ妨ケス〔全上〕

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カルヘシ〔全上〕

船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハル、トキハ其手續ヲ取消ス可シ〔第七百二十三條〕

船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ

爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス〔第七百二十六條〕

債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ〔第七百二十七條〕

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ〔全上〕

差押ハ此命令ハ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス〔全上〕

船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス〔第七百二十八條〕

第三節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

債務者カ債權者ニ對シテ或ル定リタル物品又ハ代替物ノ一定ノ數量即チ米油酒ノ如キモノ、幾升或ハ何貫目ト定メ置キタルモノヲ引渡

第五章 強制執行 第三節 金錢ノ支拂ヲ目的トセル債權ニ付テノ強制執行 四百七

サ、ルトキノ強制執行ハ前ノ如ク競賣處分ヲナサスシテ其目的品ヲ債務者ヨリ執達吏カ法律上ノ權力ヲ以テ取上ケテ之ヲ債權者ニ引渡スナリ〔第七百三十條〕

債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡スヘキトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可キナリ

〔第七百三十一條〕

此強制執行ハ債權者又ハ代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ〔全上〕

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ〔全上〕

引渡スヘキ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ

申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ〔第七百三十二條〕

債務者カ爲ス可キ行爲ヲ爲サ、ル場合ニ於テ第三者之ヲ爲シ得ヘキモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法財産編第三百八十二條第三項第四項ノ規定ニ從テ決定ヲ爲ス〔第七百三十三條〕

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラソトコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケサルモノトス〔全上〕

債務者カ其意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ第三者之ヲ爲シ得ヘカヲサルモノナル片ハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法財産編第三百八十六條第三項ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス〔第七百三十四條〕

前二項ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ(第七百三十五條)

債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生スルモノトス(第七百三十六條)

第六章 假差押及ヒ假處分

第一節 假差押

第一段 通則

假差押ハ將來ニ係ル執行ヲ安固ナラシムルノ手段ニシテ即チ金錢ノ

債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(第七百三十七條)

故ニ假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得(全上)

假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アル片殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キ片ハ之ヲ爲スヲ得(第七百三十八條)

假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス(第七百三十九條)

第二段 假差押ノ申請及ヒ命令

假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ(第七百四十條)

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサル片ハ其價額

前二項ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ(第七百三十五條)

債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生スルモノトス(第七百三十六條)

第六章 假差押及ヒ假處分

第一節 假差押

第一段 通則

假差押ハ將來ニ係ル執行ヲ安固ナラシムルノ手段ニシテ即チ金錢ノ

債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(第七百三十七條)
故ニ假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

(全上)

假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アル片殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キ片ハ之ヲ爲スコトヲ得(第七百三十八條)

假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス(第七百三十九條)

第二段 假差押ノ申請及ヒ命令

假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ(第七百四十條)

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサル片ハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ(全上)

〔書式〕

假差押ノ申請

五十紙
印 鏡

住所

債權者

住所

債務者

某

某

請求金額

一金何程

一金何程

一金何程

合計金何程

債務者某ハ此請求ヲ避クル爲メ目下頻リニ財産ヲ轉移シ又ハ
隠匿セメトスルノ恐レ有之候間右請求權ニ對スル此辨濟ヲ保
全スル爲メ債務者所有ノ不動産(動産)財産ヲ假リニ差押被下度
此段申請仕リ候也

右

年 月 日

宛

某

〔書式〕

債權假差押ノ申請

五十錢
印 紙

住所

債權者

某

住所
債務者

某

請求金額

一金何程

一金何程

一金何程

合計金何程

債務者某ハ目下將サニ倒産セントスル狀体ニ有之候間右請求
權ニ對スル辨濟ヲ保全スル爲メ第三債務者某ヨリ債務者ニ支
拂フヘキ借入金若干圓ノ債權ヲ假リニ差押被成下度此段申請
仕候也

右

某

年月日

宛

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得全上

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得第
七百四十一條

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者
ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル
保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得全上

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立
テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得全上

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ
之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ全上

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決
ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス(第七百四十

二條

假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スヲ得ル爲ニ債務者ヨリ供託スヘキ金額ヲ記載ス可シ〔全上〕

第三段 假差押ノ異議取消

債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得〔第七百四十四條〕此異議ニ於テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ〔全上〕

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止ス〔全上〕

異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ〔第七百四十五條〕

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可變更又ハ取

消ヲ言渡シ又ハ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得〔全上〕

本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ〔第七百四十六條〕

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ〔全上〕

債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルヲ得〔第七百四十七條〕

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタ

ル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタル片ハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス〔全上〕
假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供記シタル片ハ執行裁判所ハ執行
シタル假差押ヲ取消ス可シ〔第七百五十四條〕

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債
権者カ豫納セサル片モ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ
得〔全上〕

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得〔全上〕

假差押ヲ取消ス決定ニ對テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス〔全上〕

第四段 假差押ノ執行

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下ニ於テ
差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス〔第七百四十八條〕

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債権者又ハ債務者ニ於テ承繼

アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス〔第七百四十九條〕

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルニ
ヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス〔全上〕

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘ
キモノトス〔全上〕

動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス
〔第七百五十條〕

債権ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判
所トス〔全上〕

債権ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁ス
ル命令ノミヲ爲ス可シ〔全上〕

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有假

證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルヲ得(全上)

不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス(第七百五十一條)

假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ(第七百五十二條)

船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス(第七百五十三條)

第二節 假處分

係争物ニ關スル假處分ハ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス(第七百五十五條)

(書式)

假處分ノ申請

五十錢
印紙

住所

申請人

某

住所

被申請人

某

何郡市(町)字番地

一田 何反何畝何歩

右地所ハ私所有ナルニ被申請人某ハ不法ニモ自己ノモノト主

張シ係争中ノ處目下耕作ノ時期ニ際シ候ニ付私ニ於テ耕作致
スヘキ様假處分被成下度此段申請仕候也

右

年 月 日

某

宛

假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規
定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス(第七
百五十六條)

假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス(第七百五十七條)

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ
得(全上)

裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム(第

七百五十八條

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ
給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ(全上)

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ
裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セ
シムヘシ(全上)

特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコ
トヲ得(第七百五十九條)

假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲ス
コトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ
若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トス
ルトキニ限ル(第七百六十條)

急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ常否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出スヘキ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得(第七百六十一條)
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消スヘシ(全上)

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得(全上)
本節ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫属スルトキニ限リ控訴裁判所トス(第七百六十二條)

第七章 公示催告手續

公告催告トハ其定マラサル相手人又ハ判然セサル權利關係者カ若シ或ル時期内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ其權利ヲ失フニヨリ其權利ニ付届出ヲ爲サシムルタメ裁判所カ申立ノ請願ニ依リ公示ノ方法ヲ以テ

爲ストコロノ催促ナリ

請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシム爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲サ、ルトキハ失權ヲ生スル効力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得(第七百六十四條)

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス(全上)

公示催告ノ申立

公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得(第七百六十五條)

〔書式〕

公示催告申立

住所

申立人

某

二十錢
印紙

第七章 公示催告手續

四百二十五

一金何圓證書(株券)(手形) 何通
右表示ノ證書(株券)(手形)ハ何々ノ事由ニヨリテ私所有ノ處明治
何年何月何日自宅ニ於テ盜難ニ罹リ(紛失)(滅失)任候ニ付公示催
告被成下度此段申立候也

年 月 日

右

某

何區裁判所

監督判事某殿

申立ヲ許ス可キ片ハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊
ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ(全上)

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

除權判決

公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權(即チ期日ヲ經過シ配當ノ權利
ヲ除カル、ヲ云フ)判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲
シタルモノト看做ス(第七百六十八條)
除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス(第七百六十九條)

〔書式〕

除權判決ノ申立

住所

二十錢
印紙

申立人

某

一金何圓證書(株券)(手形)

何通

第七章 公示催告手續

右表示ノ証書株券(手形)盜難ニ罹リ(紛失)滅失候ニ付公示催告セ
ラレ候處該期日己ニ終了仕候間除權判決被成下度此段申立候
也

右

年月日

某

何區裁判所

監督判事某殿

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得(全上)
除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留
保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(全上)
申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタル

トキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示
催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ
(第七百七十條)

申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定
ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコ
ト許ス(第七百七十一條)

除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス(第七百七十四條)

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁
判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得(全上)

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ

以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ
 第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ
 第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ
 第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

〔書式〕

除權利判決ニ對スル不服ノ訴

住所

原告

某

住所

被告

某

一金何圓証書(株券)手形
 右表示ノ物件何々ニ付某區裁判所ニ於テ公示催告ノ未明治何年何月何日除權判決ヲ宣言セラレ候處該判決ハ何々民事訴訟法第七百七十四條第何號ニ該當スル違法ノ判決ニ付御取消被成下度依テ口頭辯論ノ期日ヲ定メラレ被告御呼出相成度此段奉願候也

右

年月日

原告

某

宛

〔書式〕

除權判決ノ訴ニ對スル答辯

二十錢
印紙

住所

原告

某

住所

被告

某

右原告ハ何々事件ニ付某區裁判所ニ於テ明治何年何月何日宣
告セラレタル除權判決ニ對シ不服ノ旨ヲ以テ訴ヲ提起候ニ付
左ニ答辯仕候

原告ハ何々ノ義ヲ主張スルト雖モ其事實ハ何々証據ノ如ク
云々ニ有之候

右ノ事由ニ付原告ノ訴ハ棄却被成下度此段答辯仕候也

右

年月日

被告

某

宛

不服申立ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之レヲ起スヘシ此期間ハ原告
カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六
號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ
其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レ
タル日ヲ以テ始マル(第七百七十五條)
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコト
ヲ得ス(全上)

公示催告ニ付テノ特別規定

盗取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得

ヘキコトヲ定メタル証書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テ
ハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス(第七百七十七條)

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ証書ニ付キ其法律中ニ特別
規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス(全上)

無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且畧式裏書ヲ付シタル證券
ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ(第七百七十八
條)

此他ノ調書ニ付テハ證券ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス
權アリ(全上)

公示催告手續ハ證券ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證
書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ
裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判

籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄ス(第七百七十九條)

證券ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所
在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス(全上)

申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ(第七百八十條)

第一 證券ノ謄本ヲ差出シ又ハ證券ノ重要ナル旨趣及ヒ證券ヲ十
分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證券ノ盜難紛失滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ルヲ得ルノ

理由タル事實ヲ説明スルコト

公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證券ヲ
提出ス可キ旨ヲ証書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證券ノ無効
宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ(第七百八十一條)

公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ

及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス(第七百八十二條)
 公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ
 揭示ス可シ(全上)
 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ
 少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス(第七百八十三條)
 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ
 對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得(第七百八十五條)

第八章 仲裁手續

仲裁手續トハ争ヲ一名若クハ數名ノ仲裁人ヲ立テ雙方ニ仲裁ヲ爲サ
 シメ裁判官ノ判決ヲ受ケスシテ事濟ミト爲ス手續ヲ定メタルモノナ
 リ
 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判断ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ

係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス(第七百八
 十六條)

將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル
 争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス(第七百八十七條)

仲裁人ノ選定

仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲
 裁人ヲ撰定スヘキナリ(第七百八十八條)

當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スル片ハ先ニ手續ヲ爲ス
 一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期

間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ(第七百八十九條)
 右期間ヲ徒過シタル片ハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ
 因リ仲裁人ヲ選定ス(全上)

〔書式〕

仲裁人選定ニ付相手方へ通知

何々事件ノ爭論ハ仲裁契約ニ基キ仲裁判断ヲ可受ノ處右契約ニ仲裁人ヲ選定セサリシニ付自分ハ住所身分某ヲ仲裁人ニ選定候間貴殿ニ於テモ七日ノ期間内ニ仲裁人ヲ選定セラレ其住所身分氏名御通知相成度此段及御催告候也

住所

年月日

右

某

住所

某 殿

當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ之ヲ變更

スルノ權ヲ有セサルナリ〔第七百九十條〕

仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ由リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ〔第七百九十一條〕

仲裁人ノ忌避

當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得〔第七百九十二條〕

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ行履ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得ヘキナリ〔全上〕

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコ

トヲ得(全上)

仲裁契約ノ失効

仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ(第七百九十三條)

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人

カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ

遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタル片

仲裁ノ判断

仲裁人ハ仲裁判断前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限りハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ(第七百九十四條)

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム(全上)

仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得(第七百九十五條)

裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ(全上)

仲裁人ノ必要ト認ムル判断上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲スコシ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル(第七百九十六條)

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ(全上)

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スコカラサルコトヲ主張スルトキ殊

ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト仲裁契約カ判断ス可キ
 争ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張
 スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判断ヲ爲スコトヲ得第七百
 九十七條
 數名ノ仲裁人カ仲裁判断ヲ爲スコキトキハ過半数ヲ以テ其判断ヲ爲
 ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アル片ハ此限ニ在ラス第七百九十八條
 仲裁判断ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可
 シ第七百九十九條
 仲裁人ノ署名捺印シタル判断ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ
 送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ(全上)
 仲裁判断ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ
 有ス(第八百條)

仲裁判断ノ取消

仲裁判断ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得(第八百一條)

- 第一 仲裁手續ヲ許スコカラサリントキ
 - 第二 仲裁判断カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ旨ヲ當事者ニ言渡
シタルトキ
 - 第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリ
シトキ
 - 第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ
 - 第五 仲裁判断ニ理由ヲ付セサリシトキ
 - 第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ
訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
- 仲裁判断ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號

及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス(全上)

(書式)

仲裁判斷取消ノ訴

住所

原告

某

住所

被告

某

右當事者間ノ何々事件ニ付仲裁契約ニ基キ住所某ノ仲裁判斷ヲ受ケ候處其判斷ニ付理由ヲ付セザリシ
右ノ理由ニ付仲裁判斷ヲ御取消被成下度依テ口頭辯論ノ期日ヲ定メラレ被告御呼出シ相成度此段奉願候也

年月日

右原告

某

宛

仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得(第八百二條)
右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス(全上)
執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル(第八百三條)
仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ

起ス可シ(第八百四條)

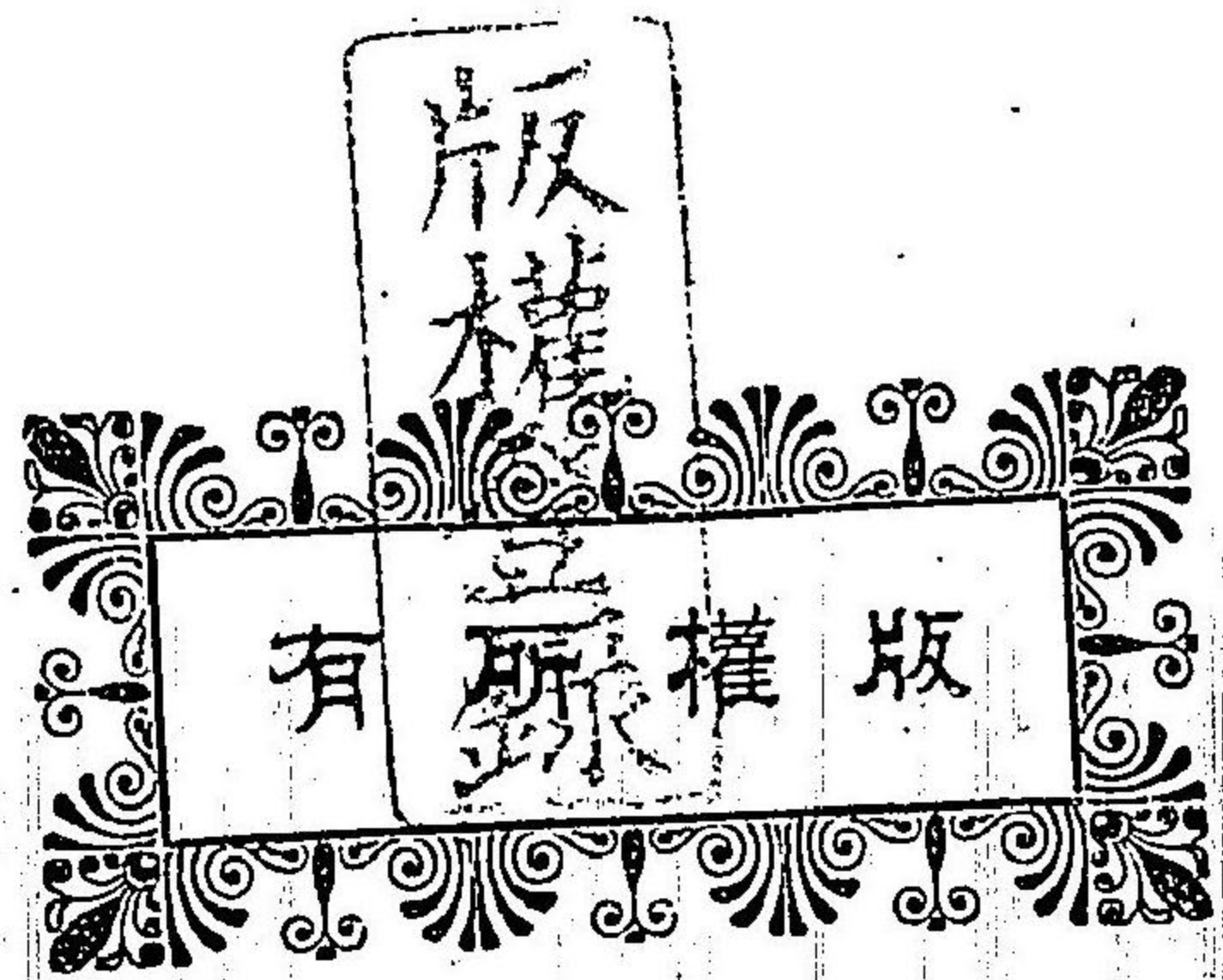
右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五個年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス(全上)
仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ(全上)

管轄

仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス(第八百五條)
前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ

最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス(全上)

捕書式民事訴訟手續終



明治廿四年七月十五日印刷
明治廿四年七月十八日出版

定價金六拾錢

編輯者

岐阜縣岐阜市柳町千百三十七番戶寄留 奧田 峻

編輯者

岐阜縣岐阜市七軒町二百八十三番戶寄留 後藤 普次郎

發行者

岐阜縣岐阜市中今町二十一番戶 眞鍋 太一郎

發行者

岐阜縣岐阜市鞆屋町十六番戶 水谷 善七

發行者

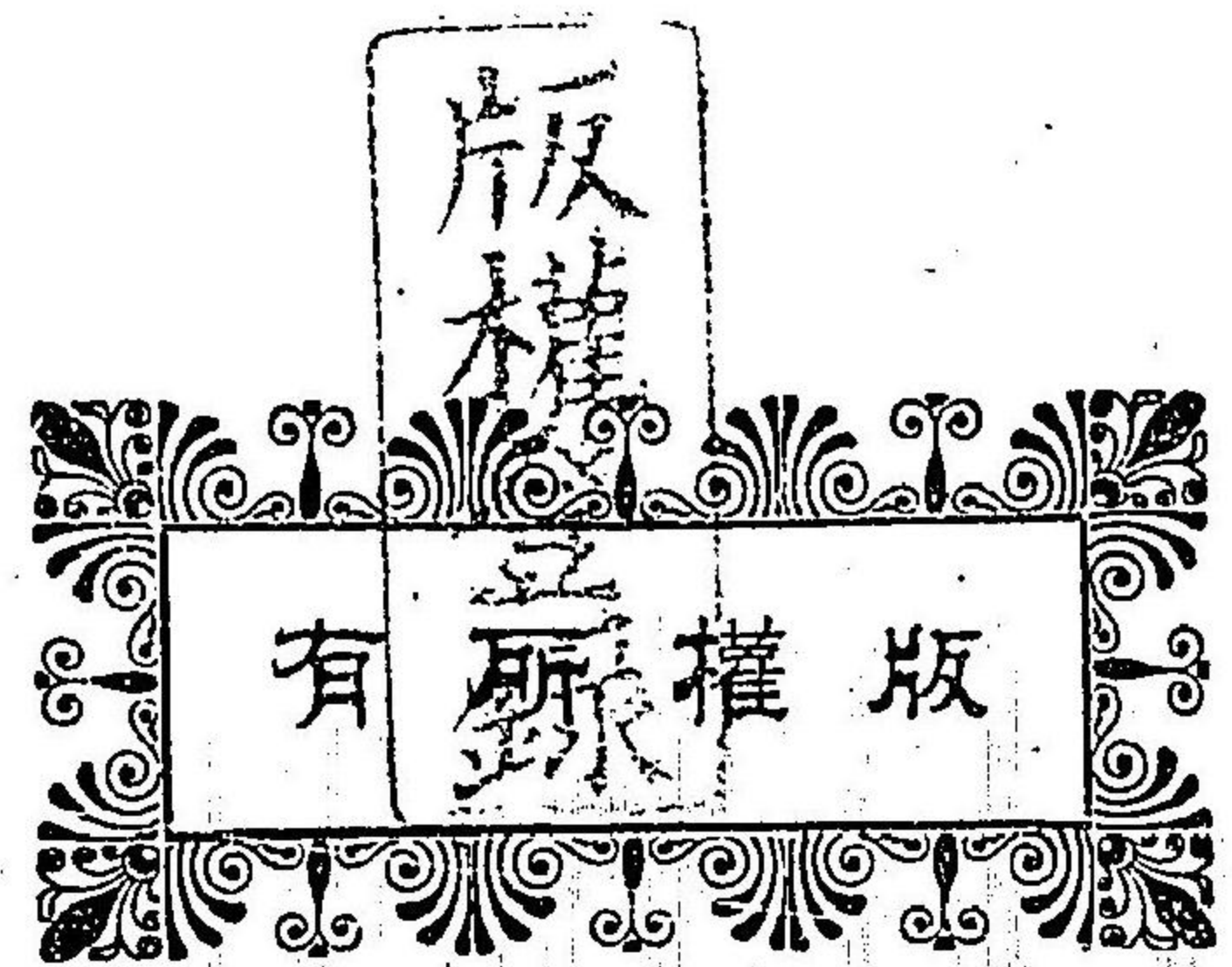
岐阜縣岐阜市泉町四百三十番戶 淺野 康惣

發行者

岐阜縣岐阜市常盤町三十二番戶 溝口 熊次郎

印刷者

岐阜縣岐阜市四百二十四番戶 片山 克武



明治廿四年七月十五日印刷
明治廿四年七月十八日出版

定價金六拾錢

編輯者

岐阜縣岐阜市柳町千七百三十七番戶寄留 奧田 峻

編輯者

岐阜縣岐阜市七軒町二百八十三番戶寄留 後藤 普次郎

發行者

岐阜縣岐阜市中今町二十一番戶 眞鍋 太一郎

發行者

岐阜縣岐阜市鞆屋町十六番戶 水谷 善七郎

發行者

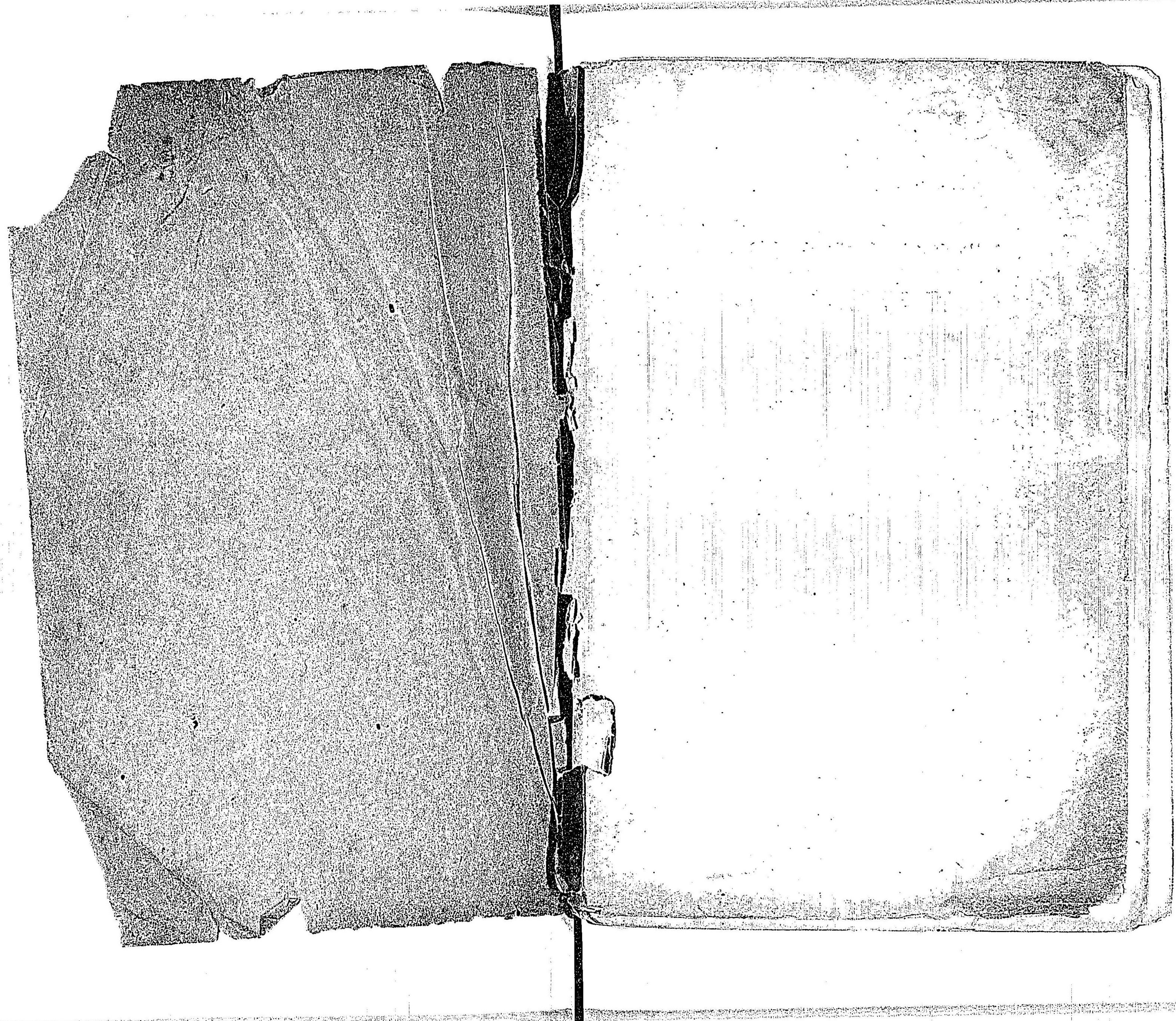
岐阜縣岐阜市泉町四百三十番戶 淺野 榮惣

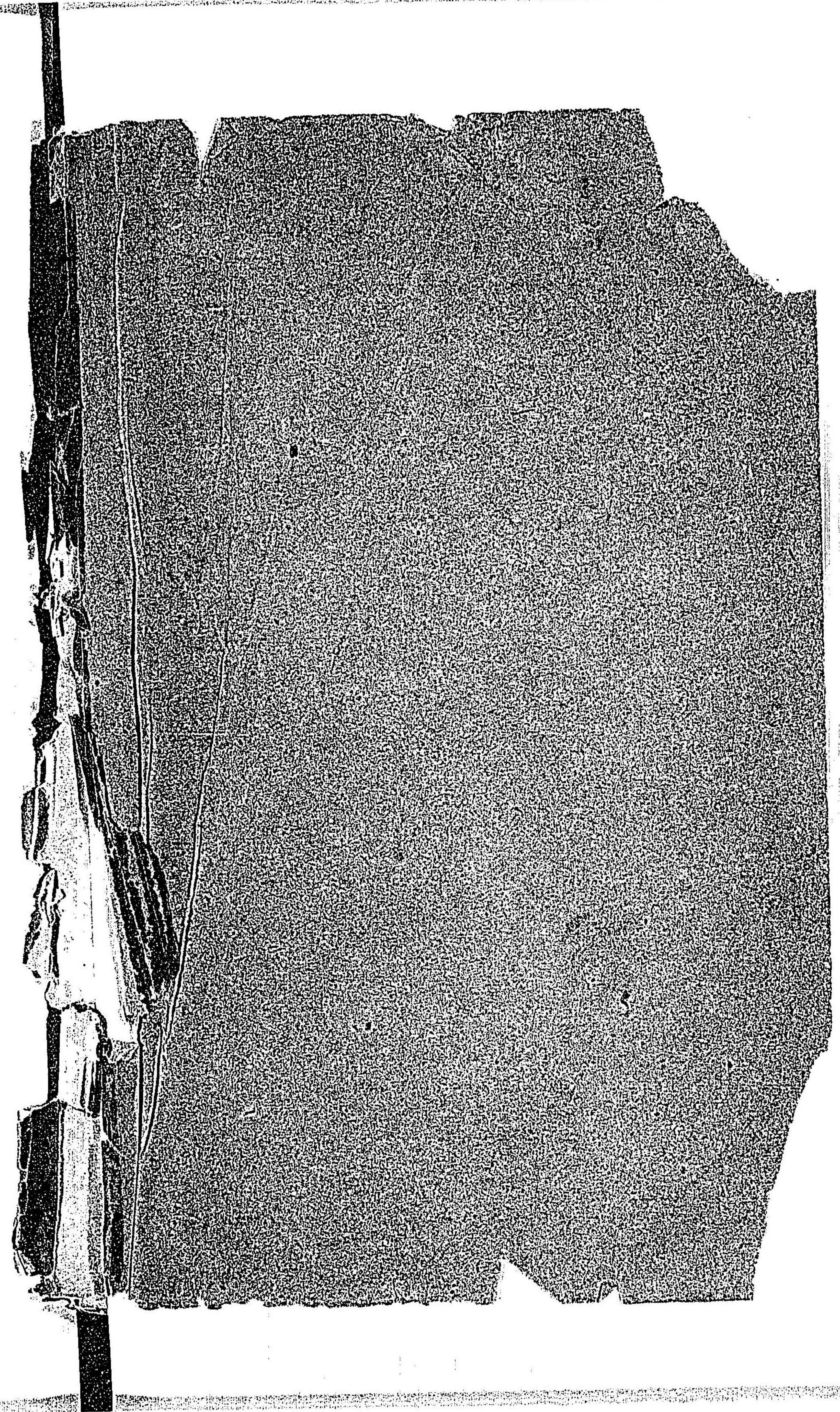
發行者

岐阜縣岐阜市常磐町三十二番戶 溝口 熊次郎

印刷者

岐阜縣岐阜市四百二十四番戶 片山 克武







155
211

田 峻
後藤 普次郎 共纂

書式
挿入
民事訴訟手続

版權所有
同盟館藏版

037075-000-2

特14-527

民事訴訟手続 (書式挿入)

奥田 峻
後藤 普次郎 / 編

M24

BBS-0663

